

第 42 回山形県少年柔道大会

(全国大会予選会・山形県防犯協会連合会会長杯争奪戦) 要項

- 1 目的 柔道の基本技能を正しく修得し心身共に健康で本県はもとより、わが国の将来になう小学生児童を育成するとともに、相互の親睦を図ることを目的とする。
- 2 主催 山形県柔道連盟
- 3 後援 公益社団法人山形県防犯協会連合会
山形県柔道高段者会
公益社団法人山形県柔道整復師会
- 4 日時 令和6年2月18日(日) 午前10時00分 開会
午前9時30分 審判・監督会議
- 5 会場 三友エンジニア体育文化センター (上山市体育文化センター)
(上山市けやきの森2番1号 TEL 023-673-2288)
- 6 参加資格 ○出場するチームは、全日本柔道連盟に団体登録していること。また、選手はその団体から登録していること。
参加チームの監督は、全日本柔道連盟公認指導者資格(C指導員)以上を保有していること。(全国大会はB指導員以上が必要)
○参加する選手は、原則として令和6年4月30日現在、小学校5年生・6年生の男女。但し、5年生の補充として4年生をもって充てることもできるが、3年生以下の出場は認めない。
○皮膚真菌症(トングランス感染症)について、発症の有無を各所属の責任において必ず確認すること。感染が疑わしい、もしくは感染が判明した選手については、迅速に医療機関において、的確な治療を行うこと。
もし、選手に皮膚真菌症の感染が発覚した場合は、大会への出場ができない場合もある。
- 7 チーム編成 ○チーム構成は分団、または道場単位とする(混成チームは認めない)。
○1チームの人員は監督1名、選手5名、補欠2名とし、申込後の変更はできない。
○選手の編成は大将、副将、中堅は5年生、次鋒、先鋒は4年生又は3年生とし、学年順に配列する。(今年度の学年)ただし、下学年の児童が一学年上の児童の位置に出場することができる。また、選手は各学年順に配列し、同学年内は「体重順」に配列すること。
※ 例えば、5年生4年生各1人3年生2人(4人しかいない場合)中堅が空きます。4年生は5年生枠に入れますが、3年生は4年生枠にしか入れません。
○各チームから1名、審判協力をお願いします。(審判協力の難しい団体は、他チームに依頼するなどして申込用紙に審判の記載をお願いします、他チームとの重複は不可。)
○監督兼任可ですが、試合と審判が重なる場合は他チームの審判に依頼しその旨大会本部に申し出ること。

○選手の変更は、申込書に記載された補欠からに限り行うことができる。この場合も、

選手は各学年順に配列し同学年内は「体重順」に配列すること。補欠の補充はできない。ただし、突発的事故（負傷、病気等）等止む得ない事態が発生した場合は、2月16日（金）午後17時まで理由書を添えて、大会事務局に変更届けをすること。（それ以後の変更は、大会当日の監督会議で承認を得た場合のみ認めることとする。）

2戦目以降の選手の変更は、概ね直前の団体戦の開始前までに、対戦する試合場の試合場係に届け出ること。ただし、団体戦が連続する場合は、前の対戦終了後直ちに届け出ること。一旦退いた選手は、その後の試合に出場することはできない。

8 試合方法

- 予選リーグ及び決勝トーナメント法とする。なお、参加団体数により、各予選リーグからそれぞれ1チーム～2チームが決勝トーナメントに進出する。
- 各チーム5名の点取り対抗戦とし、試合毎のオーダー変更は認めない。
- チーム間の勝敗決定の方法は、次のとおりとする。
 - ア 勝ち数の多いチームを勝ちとする。
 - イ 勝ち数が同じときは内容（「一本勝ち」「技有り」の勝ち数）による。
 - ウ 内容も同じときは、リーグ戦においては引き分けとし、トーナメント戦においては代表戦を1回行い、必ず優劣を決する。代表戦に出場する選手は、「引き分け」の中から抽選で1組を選んで通常の3分間の試合を行う。得点差が無く、かつ「指導」差が1以内の場合は旗判定で勝敗を決する。（GSは行わない）
- リーグ戦における順位決定は次のとおりとする。
 - ア 2勝、1勝1引分け、1勝1負、2引分け、1引分け1負け、2負けの順位とする。
 - イ アで同等の場合は、リーグ戦を通じて（ウ以下同様）勝者総数の多いチームを上位とする。
 - ウ イで同等の場合は、「一本勝ち」による勝者総数の多いチームを上位とする。
 - エ ウで同等の場合は、「技あり優勢勝ち」による勝者総数の多いチームを上位とする。
 - オ エで同等の場合は、敗者総数の少ないチームを上位とする。
 - カ オで同等の場合は、「一本」による敗者総数の少ないチームを上位とする。
 - キ カで同等の場合は、「技あり」による敗者総数の少ないチームを上位とする。
 - ク キで同等の場合は、任意の選手による代表戦で順位を決定する。

9 審判規定

- 国際柔道連盟試合審判規定及び国内における少年大会特別規定による。
- 試合時間は**予選リーグ2分間、決勝トーナメント3分間**とする。
- 勝敗の決定基準
 - 勝敗の決定基準は「一本」「技あり」「僅差」*とし、得点差が無く、かつ「指導」差が1以内の場合は、「引き分け」とする。
 - *「僅差」とは、双方の選手間に技による評価（技あり）がない、又は同等の場合、「指導」差が2あった場合に少ない選手を「僅差」による優勢勝ちとする。
- 試合場内の大きさは、40.5畳とする。
- 逆背負投は禁止とし、かけた場合は『反則負け』とする。

10 表彰

- 表彰は、優勝、準優勝、第3位（2チーム）とする。
- 優勝チームは**5月4日・5日**に開催される全国少年柔道大会の出場権を得る。

11 申し込み ○別紙所定の申し込み用紙に必要事項を記入しメール又は郵送すること。

(大会事務局)

〒990-0301

東村山郡山辺町大字山辺107 高橋 成幸

携帯 090-3122-6610

E-mail r05takahashi@yahoo.co.jp

締め切り 令和6年1月26日(金) 必着

12 参加料 5,000円 大会当日受付で支払うこと。

13 組合せ 予選リーグについては大会事務局で抽選によって決め、決勝トーナメント戦は予選リーグ終了後抽選で決める。

14 安全管理 ○選手はスポーツ安全障害保険等に加入すること。
○救護係として公益社団法人山形県柔道整復師会山形地区会員を配置し、万が一事故に発生に備える。
○当日の休日診療機関
① 山形県立中央病院 山形市青柳1800 ☎ 023-685-2655
② 山形市立済生館病院 山形市七日町1丁目3-26 ☎ 023-625-5555
③ 東北中央病院 山形市和合町3丁目2-5 ☎ 023-623-5111

15 その他 ○選手受付は午前9時15分より会場出入口で行う。
○審判・監督会議は、大会当日午前9時30分より体育館2階ミーティング室で行う。
○ゼッケンの着用
柔道衣にゼッケン(団名)を縫い付けて出場すること。布地は白色。
サイズは概ね横30cm・縦20cm・名字(姓)上段・団名下段、
文字色は男子、黒色・女子は赤色とし、最初からゼッケンを付けてない選手は失格とする。
○計量
体重の計量は行わないが、偽りの申告をしないよう注意すること。
相手チーム又は審判等から指摘があった時点で計量を実施し、偽りの申告があった場合は当該チームを失格とする。

脳震盪対応について

ジュニア（20歳未満）以下の大会要項に下記条項を追加する
選手および指導者は下記事項を遵守すること。

記

- 1、 大会1ヶ月以内に脳震盪を受傷した者は、脳神経外科の診察を受け、出場の許可を得ること。
- 2、 大会中、脳震盪を受傷した者は、継続して当該大会に出場することは不可とする。
(なお、至急、専門医（脳神経外科）の精査を受けること。)
- 3、 練習再開に際しては、脳神経外科の診断を受け、許可を得ること。
- 4、 当該選手の指導者は大会事務局および全柔連に対し書面により事故報告書を提出すること。

大会開催に伴うトラブル等の防止について【常識ある行動の確保】

「場所取り」は禁止とします。何時間も前から入り口に並ぶ等の行動は慎むようにする。
「観客席」は譲り合いの気持ちで、一人でも多くの方が着席して応援出来るよう心がける。
つきましては、下記のことを守っていただきをお願いします。

記

- 試合開場30分以上前には入口等に並ばない。
- 靴は座る場所に持っていく。(玄関に置かない。)
- シート、敷物等で場所、座席は取らない。(譲り合い)
- トイレの使用はきれいに。(スリッパを元に戻す)
- ゴミは持ち帰る。(弁当、ペットボトル等)
- 来た時よりもキレイな状態で帰る。

『ご協力お願いします』